



江南市議会 12月定例会は11月26日に開会。すでに一般質問は12月1日～3日の3日間で行われました。党議員団3人の一般質問の主な内容をお知らせします。

高齢者等の住み替え支援を 森 ケイ子議員

4階や5階に住んでいる高齢者の方から、「足が弱ってきて階段を上がるのが辛い」「入院しているが、退院するには1階でないと生活できない。転居するには多額の費用がかかり、年金生活ではとてもお金がたりない」など深刻な相談が寄せられています。

岩倉市や春日井市では、2階以上の住宅に住んでいる65歳以上の高齢者が、階下への転居を希望する場合、転居費用

に対し20万円を限度に助成金を出す制度があります。

高齢者や障がい者が、住み慣れた地域で生活を続けることができるよう、江南市でも「高齢者等賃貸住宅住み替え助成制度」を実施するよう提案しました。今後検討するという答弁でした。

● その他に、宮田地域の浸水対策や、耕作放棄地問題、地域コミュニティの推進などについて質問しました。

過少宅地の精算、ていねいな説明を 東 よしき議員

布袋南部土地区画整理事業が完成に近づいています。区域内に1000㎡ほどある市有地のうち約250㎡が、施工後に面積100㎡未満となる過少な宅地に割り当て、換地されていたことがわかりました。

鉄道高架事業終了後に区画整理も換地処分されることになり、過少宅地に割り当てた市有地も精算対象となり、割り当てを受けた宅地から3990万円が市に入ることになります。

精算時期の評価で計算されるのであれば、数字の変動があると考えられます。地権者へのていねいな説明が今後必要になると指摘しました。

● その他、再生可能エネルギー利用促進、小規模企業振興条例、住宅リフォーム助成制度の復活について質問しました。



本気で公共交通網の整備を かけのまち子議員

市長は市内公共交通網の整備を公約に掲げ、6月議会では「いこまいCARは地域により料金格差がある。新たな体制で、コミュニティバス導入も含めた市内公共交通について検討していく」と答弁。9月議会では「地域公共交通の活性化再生法にもとづく法定協議会設置を視野に検討」とさらに踏み込んだ答弁がありました。これを踏まえ、今後の進め方をただしました。

しかし策定中の、まちひとしごと創生総合戦略案（5年計

画）では、相変わらず「いこまいCARの利用を促進する」方向が示されており、本気度を疑う事態です。

市当局は「市民の間に様々な意見がある。新年度に新たな庁内組織を立ち上げ、法定協議会を設置するかどうか総合的に検討していく」などと、またもや先延ばしの答弁。市長公約はどうなったのかが、問われます。

● その他に、平和教育の推進、新図書館建設にむけて、新ごみ処理施設について質問しました。



行き詰った新ごみ処理施設の江南候補地

断念しーから出直しを

11月26日に、江南、犬山、扶桑、大口の4首長と地元6地区の正副区長との初の意見交換会が開催されました。日本共産党の2市2町の議員団は会議の公開を申し入れましたが、許可されませんでした。新聞報道によれば、扶桑町小淵地区の反対はさらに強まり、地元同意の取得は一層困難になっていることが推測されます。

しかし澤田市長は「23万人のかかわる問題、公共の利益を考え一日も早く、明確な方向性を示したい」「ブロック会議で相談する」などと答弁。前に進む姿勢を示しました。

堀・前江南市長が勝手に江南市内での受け入れを宣言し、同意取り付けの期限と約束した1年半はとうに過ぎ、すでに3年が経過しました。小淵区住民のそもそもの反対理由は、前江南市長のスジの通らない強引な候補地押しつけへの不信にあることは分かっています。行政側の論理の押しつけでは、事態はこじれ悪化するだけではないでしょうか。

跡地に新体育館を建設するための市民プールの廃止条例案

平成30年度の完成めざし、新体育館の実設計が進んでいます。新体育館の建設地は、現在の市民プール用地となっているため、今議会に市民プールの廃止条例が提案されました。

市民プール廃止後の代替として、市は木賀コミュニティプール（幼児用）と、小学校のプールを市民に開放すると答弁しましたが、これでは大人対象の代替措置がありません。

将来の新プール建設の見込みについて、市当局は「場所と財源が必要で、改めて課題を整理しいろいろな角度から検討していく」と明言を避けました。